

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区立郷土資料館運営委員会
事務局（担当課）		文化商工部 文化デザイン課
開催日時		令和5年3月3日（金）14時00分～16時00分
開催場所		としま産業振興プラザ6階 第2会議室
議 題		1. 委員委嘱、委員長互選 2. 区制90周年企画展について（報告） 3. 区制90周年「豊島大博覧会」（4事業）について 4. 令和5年度の事業計画について 5. 特別展「豊島大博覧会」の見学・講評
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0人 非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	浜田弘明(桜美林大学資格・教職センター教授) ※委員長 長佐古美奈子(学習院大学史料館学芸員,豊島区文化財保護審議会委員) 原田 光(KAITA EPITAF 残照館(旧「信濃デッサン館」館長お手伝い元 岩手県立美術館館長) 宮瀧交二(大東文化大学文学部教授) 間嶋 健(豊島区立巣鴨小学校校長) 小池陸子(郷土資料館友の会会長)
	事 務 局	文化商工部長 文化デザイン課長 郷土資料館長(欠席) 芸術文化推進グループ係長(学芸員) 郷土資料館管理運営グループ主査(学芸員) 芸術文化推進グループ学芸員 学芸研究員6名

審 議 経 過

文化デザイン課長 本日はご多忙の中お集まりいただき、ありがとうございます。ただいまより豊島区立郷土資料館運営委員会を開催させていただきます。本日はよろしくお願いたします。開会に先立ちまして、2月9日、本区区長の高野之夫が死去しましたことをご報告させていただきます。任期中ということで、まだまだやることも課題もある中、突然のことで非常にショックを受けております。職員一同一丸となってこれまでの文化によるまちづくりをしっかりと継承していきたいと思っておりますので、よろしくお願しいたいと思っております。まず委員会の開催に先立ちまして、文化商工部長よりご挨拶をさせていただきます。

文化商工部長 みなさん、こんにちは。本日はお忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございます。冒頭、文化デザイン課長が申し上げたとおり、2月9日に6期24年豊島区政に全身全霊を傾けた高野区長が急遽亡くなりました。その後お通夜、告別式では、非常に多くの区民の方々、関係各位にお集まりいただきまして、我々職員が、区長の人づきあいといいますか人脈の広さとか、あるいは豊島区に対する思いを改めて痛感しました。当面は選挙まで副区長が職務代理という形で務めますけども、引き続き豊島区へお力添えいただければと思います。本日の郷土資料館の運営委員会ですが、令和2年に西部地域複合施設の建設計画が白紙に戻りまして、その後、(仮称)芸術文化資料館の機能のあり方も含めて見直しをするということになっておりまして、これまで郷土、美術、文学・マンガの3分野の専門部会でご検討いただいていたわけですが、それに変わる新たな会議体ということで、平成25年から休会しておりました郷土資料館運営委員会の要綱を改正しまして、今日は資料もお手元にご用意してありますが、新館構想のあり方に関することを運営委員会の所掌事務に入れ込みまして、改めて各委員の皆様には様々なご意見等いただければと思っております。後ほど4月1日に遡って委員の委嘱状をお渡しさせていただきます。

今日は、昨年豊島区制90周年ということで様々な事業に取り組んでいるのですが、その中でも特に郷土資料館の場所を活用して、90周年の歩みを区民の皆様にご覧いただく。それから先の10年、100周年に向けた豊島区の変貌をわかりやすく模型などを用いて子どもたちにも見てもらおうということで、「豊島大博覧会」という企画展示を現在やっておりますので、後ほどご覧いただき、ご意見をいただく段取りになっておりますので、併せましてよろしくお願いたします。簡単ですが、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

文化デザイン課長 続きまして事務局の紹介をさせていただきます。

(事務局紹介)

続きまして、文化商工部長より委員の委嘱をさせていただきます。

(委嘱状交付、委員の自己紹介)

委員の皆様、よろしくお願いたします。それでは委員長を選出をさせていただきますと思いますが、どなたか、もしくは推薦どなたかいいかとか言っていたら。浜田委員、今、お声があがりましたが、いかがでしょうか。

浜田委員 わかりました。

文化デザイン課長 ありがとうございます。委員長席にお願いたします。それでは浜田委員長が議長となりまして、次第2の区制90周年企画展から進行をお願しいたいと存じます。よろしくお願いたします。

浜田委員長 では改めまして委員長にさせていただきました浜田です、よろしくお願いたします。さっきもちょっと申し上げましたが、2008年から豊島区では新しいミュージアム建設の計画ができて、構想委員から延々と今年で15年目になるのでしょうか、携わらせてもらっております。東京オリンピックの物価

高騰のあおりを受けて実施設計まで終わったところが、結局建設できないという大変残念な結果となりました。計画が中止になったときは、私たちから区長に直訴いたしまして、直談判の会の場をもつていただき、その結果、潰さないようにお話申し上げ、今回のこのような会につながったのかなと思っております。そういう私個人も強い思い入れがありますので、この会議をベースに、また博物館の新館建設の実現に向けて実現が進んでいったらいいかなと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。今日はこのあと特別展の見学会がありますので、皆さんにもご協力いただきたいと思っております。

それでは、議事次第に従って進めていきたいと思ひます。まず、議事次第の2番目、区制90周年企画展についての報告を事務局からお願いいたします。

事務局

まず企画展につきましては、資料1をご覧ください。文化商工部長からお話がありましたけれども、豊島区制90周年ということで、昨年度から区長、副区長等を交えて検討の場を設けておりまして、区制90周年のイベントの第一弾ということで、郷土資料館で昨年5月5日こどもの日にオープンし、8月28日まで94日間企画展を開催しました。「昭和の暮らしと遊び～昔の遊びを体験してみよう」というタイトルで、令和の時代を迎えた今、改めて昭和の時代を振り返るといふ趣旨で、「遊びと家電製品」、「昭和の情景」をテーマに区民の方から寄贈いただいた郷土資料、初公開を含む美術作品、文学資料など400点余の資料を展示しました。裏面には展示風景、イベント風景の写真を掲載しております。「昭和の情景」コーナーでは、昭和レトロ館の開設準備にご協力いただいた矢島勝昭さんの子供の時代を描いた作品などを映像で紹介するとともに、企画展示室では昭和30～40年代をイメージした暮らしを和室2部屋で再現し、そちらに上がって昔の暮らしを体感できるような展示にしました。また、遊びが体験できるコーナーや、豊島区・遊び・昭和などに関連する図書コーナーを設けまして、世代を超えて昭和の時代を楽しみながら学べる企画展示としました。

今回、体験型展示ということに力を置きましたので、関連イベントとして、紙芝居上映、昭和の遊び体験、蓄音機とレコードプレーヤーで音楽を聴く、はんこペタペタ、ギャラリートーク、映画上映会など、盛りだくさんの内容で実施しました。また露出型の展示、体験型の展示でしたので、私たちも毎日交代で会場当番をしながら、来館者の方と交流をする、コロナ禍において非常に貴重な機会となりました。

続いて資料2は会期中の来館者数をグラフにしたものです。初日のオープニングセレモニーでは、NPO法人はばたけ千早の皆さんにご協力いただき「ふるさと豊島」といふ紙芝居のお披露目会もしていただきまして、840人ほどの来館者がありました。また、8月は夏休みでしたので、親子連れや子どもたちが何度も訪れ、会期後半まで来館者が減ることなく、延べ17,119名の方にご来館いただきました。添付資料として矢島さんの紙芝居の絵を使ったチラシ、展示リスト、解説リーフレットも作成しましたので、ご覧いただければと思ひます。

浜田委員長

区制90周年企画展のご報告をしていただきましたが、委員の皆様からご質問、ご意見があればお願いしたいと思ひます。いかがでしょうか。

E 委員

5月5日にはご案内をいただきまして参加させていただきました。そのときに区長さんもいらしていただいてとっても喜んでいらしたので、そのことを今思い出して。それからその紙芝居も、とても楽しい紙芝居でした。

浜田委員長
A 委員

その他ご質問、ご意見が、もしあればお願いしたいと思ひますが。昭和30～40年代の和室再現が露出で展示されているという話だったのですが、これは収蔵品ですか。

事務局	はい。郷土資料館の寄贈資料（生活資料）を中心にしまして、当時の雑誌や子どもの本などは文学・マンガ分野から出品しています。先にご説明しなかったのですが、90周年の企画展・特別展とも3分野の連携で、美術と文学・マンガ、郷土の所蔵資料、すべて別々の展示ではなくて、同じテーマの中で持ち寄って構成するような形で行ったものです。
A 委員	色々な分野の収蔵品を幅広く集めて再現していて、とてもいいと思いますが、その一方で、会期が94日間という長い期間で雑誌とか結構脆弱なものが展示されていたので、心配になりました。例えば子どもたちが手に取って見るのはカラーコピーにするなど、何かそういう工夫があってもよいのではないかと思います。
事務局	今回は実物資料を見ていただくということで、触るのはお断りして、その代わりにエレベーターホールのレファレンスルームでは、関連の図書を並べて、興味を持ったことや調べものなどをしていただく形で行いました。
C 委員	まだ展示も拝見していないのですが、資料3を拝見すると、こちら7階（郷土資料館）がメイン会場で。昭和歴史文化記念館は前からありましたか。要するに、豊島区として区制90周年イベントですよ、トキワ荘マンガミュージアムとか、教育委員会、部局が違うのですか。
文化商工部長	同じです。文化商工部で一緒です。
C 委員	一斉に博物館、資料館関連施設でやってらっしゃるとか、その中のいくつかだけでやっているのかとか、その辺はどうですか。トキワ荘マンガミュージアムはやってないのですか。
文化デザイン課長	トキワ荘マンガミュージアムと連動して、90周年ということで様々な企画をやっています。「豊島大博覧会」という括りの中ではトキワ荘マンガミュージアムは別ですけども。90周年の企画ということではトキワ荘マンガミュージアムも一緒にやらせていただきました。
C 委員	要するに、区民の皆さんから見て分かりやすい開催形態になっているのかなってことが言いたかったのですけども。博物館、資料館のような施設がいっぱいある中で、やっているところとやってないところがあるようだと思うわたりするのがあまり良くないかなと思います。やるなら関連施設一斉に全部やっています、というのが分かりやすいかなと思います。
文化デザイン課長	そうですね、90周年という形で11月をコア期間という形でさせていただきますまして、90周年の企画の中に「豊島大博覧会」というのを作らせていただきますまして、トキワ荘マンガミュージアムの企画展もそこに合わせて、一緒になってやらせていただきました。
浜田委員長	数字を見ると来館者がとても多い、この狭い中で1日800人もどうやってさばいたのかなと思うのですけれども。本当に普通の大きな博物館と引けを取らない入館者数を得たのかなと思いますので、区民にも人気があった企画展だったということが想定できるかなと思います。引き続きこのような企画を催してもらってもいいのではと個人的には思っています。
D 委員	学校との連携はどの程度ですか。
文化デザイン課長	学校との連携につきましては、「豊島大博覧会」ともかぶってしまっていますが、企画展「昭和の遊びと暮らし」につきまして、区民ひろばや近隣の小学校にお声がけをさせていただきました。「豊島大博覧会」につきましては、全小学校、バスツアーで来ていただいているということもやっております。そこにはトキワ荘マンガミュージアムも一緒に入ってやらせていただいている、という状況になります。
C 委員	このコロナ禍のなかで、文化庁はGIGAスクール構想、それからICT教育を推奨して、実際コロナ禍で非常に有効な教育形態だとは思いますが、一方でその児童、生徒が一人一人コンピューターもしくはタブレットを持って、バーチャルな世界は広がるのですけれども、実際の実物資料を見に資料館、

博物館に今まで足を運んでいたのに、コロナは別の理由もありますけど、行かなくなって、ネットで見ればいいのか。それまで博物館に学校教育の一環で児童、生徒の小中学校で行っていたところをやめたりするところもあるわけですが。バスをチャーターしてって嬉しい話もありましたが、GIGA スクール構想、ICT 教育をやりながらもやっぱり実物資料も学校教育の有効性っていうのは失われてないですから、とても嬉しく思いました。自治体によってはそこが後退しているところもあります。それから、コロナで先が見通せない社会になって、ますます断捨離とか物を持たないシンプルライフとか、本来預かるべき資料が捨てられたり、失われたりする事例が結構あるようですけども、そういうものの重要性を区民の皆さんにアピールする 90 周年イベントは良い機会だと思いました。こんな普通の昭和の暮らしの身近にあったこと、貴重な資料は特に、あとで後悔しないように、こういう機会を通じて文化遺産の次世代継承をさらに醸成していただけると嬉しいなと思いました。

文化商工部長

郷土資料館をメインに 90 周年のイベントをやろうというのは、発案は元々高野区長ですが、郷土資料館は非常にいろんな郷土、文学・マンガ、美術の収蔵品があるのですが、これまでは積極的に区民の方々に鑑賞していただく機会は本当に限られていたため、特にこれからを担う子どもたちにリアルに感じてもらいたいという思いがありました。豊島区の小中学校は他に先駆けて 1 人 1 台の端末を支給して、インターネットで調べられたりするような環境をいち早く整えてはいるのですが、実際に現地に来ていただいて色々見ていただく、例えば、ここのイケビズで伝統工芸の見本市もやっていますが、そこにも小学生の子どもたちを毎回呼んで、いろんな所をタブレットを持って写真を撮ったり、事前に調べたり、学校に帰ってそれを報告したりということを常にやっていただくような形で進めております。特に、この郷土資料館を使って、あるいはトキワ荘マンガミュージアムも、区内で遠い近いがありますので、遠い学校につきましては区がバスをチャーターして必ず見ていただく、そういったことを積極的に取り組んでおります。ご意見ありがとうございます。

浜田委員長

学校利用の話も出ましたので、議題 3 の区制 90 周年豊島大博覧会の説明について、続いてよろしく申し上げます。

事務局

資料 3 と 4-1、4-2、4-3 が関連の資料になります。後ほどご見学いただきますけれども、「豊島大博覧会」の 4 事業のメイン会場になる郷土資料館では、昨年 10 月 1 日、豊島区制が施行された月日にあわせてオープンしています。郷土資料館の分館である雑司が谷旧宣教師館、鈴木信太郎記念館でもそれぞれ 90 周年の企画展を行い、同時開催しております。昭和歴史文化記念館（トキワ荘通り昭和レトロ館）は 11 月 3 日からのオープンでした。全部で 4 会場での開催になります。郷土資料館では、「豊島大博覧会～過去から学び、今日を生き、未来に希望～」という区制 90 年のメッセージを 3 分野の資料、ジオラマ、模型、映像を使いまして、7 階のフロア全部を展示会場にして、4 m の天井高を活かした展示構成を考え、準備を進めました。全部で 700 点近くの作品・資料を展示しています。

事務局

雑司が谷旧宣教師館は「としまと『赤い鳥』」というテーマで児童文化を中心とした展示を行っております。『赤い鳥』を創刊した鈴木三重吉、深沢省三、北原白秋、ゆかりの作家の芥川龍之介、坪田譲治など 5 人の作家を取り上げたパネル展と関連の作品本、復刻版などを展示しております。また、「おばあちゃんのお話し会」では小森香子さんの朗読会の上映も行っております。

鈴木信太郎記念館では、豊島区 90 年の歴史とほぼ重なる、3 つの時代・様式の建物からなる鈴木家の暮らしをテーマにご紹介しています。昭和 3 年にできた書斎、空襲の翌年の昭和 21 年に焼けてしまった母屋の跡に建てられ

事	務	局	<p>た茶の間・ホール棟、昭和 23 年に春日部の鈴木家本家から移築された座敷棟それぞれの建物で鈴木家の暮らしを再現いたしました。</p>
			<p>座敷に関しては、大きい家具は残っておりませんでしたので、参加型イベントを行いました。信太郎の長男の成文という建築家ですが、彼が昭和の暮らしを大事にしており、日記にも多く書き残しています。そういうものをモチーフとしたカルタを作り、区民をはじめとする来館者の方にカルタを描いていただいで展示するイベントになっております。</p>
			<p>昭和歴史文化記念館は、元々、南長崎三丁目にありました味楽百貨店という一棟式のマーケットを改修して室内を展示室仕様にした施設です。元の建築の部屋割りは基本的には変えずに、整備して、昨年 11 月 3 日にオープンした施設です。</p>
			<p>その施設の「多目的室 2」を使って区制 90 周年の連動企画ということで「タイムトリップ豊島区の 90 年」という、郷土資料館の「豊島大博覧会」と内容的にもリンクするような形で写真とかパネル展示を中心とした展示会をしております。</p>
文化デザイン課長			<p>11 月にオープンしたばかりの記念館でございます。こちらは区がオーナーさんから借り受けて味楽百貨店という一棟式の戦後マーケット、この一部を借りてそこを活用しています。トキワ荘マンガミュージアムは建て直したものですけれども、こちらそのままの本当にアパートに残っている部屋を活用して展示室を作っております。空気感とかにおいが本当にそのままです。いわゆる WEB 等でも取り上げられておまして、多くの方に来ていただきまして、小学生の皆さんにも、昭和レトロ館、トキワ荘マンガミュージアム、郷土資料館に来て、ふるさと学習をやっていただくという状況でございます。</p>
事	務	局	<p>当初は 3 月 26 日までということでしたが、多くの方に好評いただき反響も大きいということで、区長から 5 月 28 日まで会期延長という話がありまして、5 月 28 日まで行っております。資料 4-1 につきましては郷土資料館の会場の来館者の推移グラフになっております。</p>
			<p>会期中はイベントや記念講演会などを行い、多くの方にご参加いただいております。2 月末時点で 29,296 名の方にお越しいただいております。資料 4-2 につきましてはサテライト会場を含む 4 施設の来館者の総数をグラフにしたものになっております。</p>
事	務	局	<p>資料 4-3 ですが、先ほど学校連携の話が出ておりますが、まさにその関連の資料になります。ブルーの色付けのものと緑の色付けのものが若干違うので、そのへんから少しお話をしますと、ブルーの方は、「ふるさと学習バスツアー」としているもので、これは実は昨年度から文化観光課が中心で行っている事業です。昨年度は区立の小学校に通う児童を対象にトキワ荘マンガミュージアムのみの見学を行うものだったのですね。今年度は特別展の「豊島大博覧会」を多く子どもたちに見学してもらいたいという区長の意向もありまして、郷土資料館とトキワ荘マンガミュージアム、それから昨年 11 月に開館した昭和レトロ館、その 3 館の見学を基本にしたバスツアーです。</p>
			<p>小学生は多くの場合、給食時間までに学校に戻らなくてはいけないので、3 館を午前中に周らないといけないという非常にタイトな日程で組んでいます。そういうプランで原則として動いています。今もこれは続いている事業になります。</p>
			<p>各館をゆっくり見学する時間はないので、学芸スタッフが冒頭 10 分程度の解説を行って、残りの時間を自由に見学してもらおうという流れになっています。一方、緑色の郷土学習と呼ばれるものですが、これは小学校 3 年生の社会科の郷土学習の中で「暮らしの移り変わり」という単元がありまして、その学習のために毎年 1 月から 2 月にかけて、郷土資料館の開館以来、ずっとこの時期には団体見学が多くありました。ところが、昨年度、一昨年</p>

度はコロナ禍のため、ほとんど来られなくて、昨年度は1校、一昨年度は1校っていうそういう感じだったので、今年度はコロナ感染症をめぐる状況もだいぶ変わってきたので、これも現在進行形の事業ですけれども、5校がその対象となっているということです。「ふるさと学習バスツアー」とは趣旨が違うところもありますので、カレンダーの中に色分けして書いてあります。郷土学習の方はふるさと学習ほどタイトではないので、各学校の希望になるべく沿う形で事前に先生方と打ち合わせをして、学芸スタッフが解説を工夫して見学対応をしているものになります。再来週の16日まで続きますので、もうひと頑張りといったところです。

浜田委員長

ただいま「豊島大博覧会」4会場の事業を紹介いただきましたが、これについて質問、ご意見があればお願いしたいと思います。

C 委員

先ほども申し上げたとおり、直接実物資料を見ることの小中学校教育の意義は大きいと思いますので、自治体によっては毎年校長会とかあるいは小中学校の先生方に展覧会の資料、チラシをお届けするとか、そういうことをやっているところもありますし、実際には児童、生徒よりも学校、校長、先生方が引率、あるいはそういった計画を立てるわけでしょうから、そこへの働きかけをぜひきちんと継続してやっていただけると、今回の前例が活きると思います。

それから、どこまでが一緒に90周年をやっているのかという話ですけど、熊谷守一美術館もあります、それから直接こちらの所管じゃないと思いますが、例えば昨年のTBSテレビの「世界ふしぎ発見！」でも池袋の特集があって、若者のサブカルチャーの聖地になっている、今回のこの新しい施設もそういう関連の人から見ても注目されていると思いますが、そういう多くの若者がサブカルチャーの聖地として集まってきていますね、そういうところとの連携とか、色々広がると思います、もし何かあればお聞かせください。

文化デザイン課長

まず1点目の学校への働きかけにつきましては、今、おっしゃったとおり、きっかけにもなりますし、これまで続けているものもございましたけれども、これからやっていく企画展等も学校に周知させていただきまして、多くの方に来ていただくように、つながっていくように進めていきたいと思っております。2点目の90周年全体、実は全庁に90周年ってかかっています。90周年のホームページも立ち上がっていて、サブカルのコッチではこんなことをやっています、郷土の分野もありますし、文化デザイン課のセクションとしても音楽によるまちづくりをやっていたり、90周年の中で1年間通して豊島区ではこんなことが行われていますというのを、リアルにここで見えるようにさせていただきながら進めているところでございます。

文化商工部長

それもいわゆる行政、役所の部局横断だけではなくて、豊島区の特徴として民間の方々、区民の方々と一緒にやるということがありまして、区民の実行委員会というのを90周年に向けて、その中で、地域で取り組まれている様々なものを部会という形で位置づけまして、これまでですと、いわゆる実行委員会、関係者だけでそういうイベントを考えられていたのですが、そこに地域の別の方々に参画いただいて、企画、運営段階で入っていただくということで、さらにそこを横に広げるという活動も、今回90周年の記念事業を通して構築しておりますので、今後、引き続き地域の方々、特に子どもたちがそういったところを体験できるようなものを、これは教育委員会と区長部局が引き続き連携をとりながら進めていくってことを、今後も続けていきたいと思っております。

C 委員

学習院大学とか、立教大学、目白大学とか、大学にも声掛けはされているのですか。

文化商工部長

大学も一緒に入っています。

C	委員	それは手をあげて何かやっていく、こちらから何か事業まで具体的にお願いするのではなくて、何かタイミングを合わせてやっていただきたい、そんな感じですか。要するにイメージがあるのは、東京オリンピック・パラリンピック 2020 の時にほとんどの自治体で取り組み、推進委員会というのができて、役所を中心に商工会とか自治体内の小中高大学とか、自治会とか様々なところが全部連携してオリンピック一丸となって盛り立てようということが行われたと思います。
文化デザイン課長		<p>私が地元で座長をやっていたのですが、そういうノウハウが豊島区も当然オリンピックのときにあると思いますが、同じように活かしていけば、お願いする事業とあるいは何か考えて参加していただきたいというのと大きく2つに分かれると思いますが、何かそういった形で継続できるのではないかと思います。</p> <p>そうですね、オリンピック以前から豊島区は大学連携を強く進めております。3 大学でやっておりまして、学長懇談会みたいな形で区長が主催して各大学に出向いて意見交換会とか、様々な企画について話し合いなども行っておりまして、今回 90 周年ということで、区民実行委員会、企業実行委員会がありましたけれども、当然のことながらこれまでと同様に区内の大学との連携を図りながら様々な企画には参画していただいたり、学校にご協力をいただきたいということで、今進めているところでございます。委員のおっしゃるとおり、これを続けていくことが大事だと思っております。</p>
C	委員	そういう中で、先ほども話題にあった新ミュージアム構想とかそういうことへの理解が深まり、補助が得られるだとか、単発で終わらせてしまうのではなく、継続する中で自然とそういう意識が醸成されてくるような、それが理想形かなと思います。
A	委員	委員から大学とはどうなっているのだとご質問があり、事務局から大学とも連携をしているという話を伺いまして、驚愕をしています。
浜田	委員	現場に下りていないってことですか。
A	委員	現場にはまったくおりていません。今 54,191 名という来館者数に本当に羨ましくて、素晴らしいと思って。どういうノウハウがあるのだろうと。今バスツアーとか伺いましたが、例えばこれは私どもの宣伝になります。春から展覧会をします。学習院は学校制服ですとかランドセルとか、そういったものの発祥地でもありますので、多分、学校教育の中でも興味を持っていただけのテーマではないかと思えます。今からだとなかなか難しいかと思いますが、何か一緒にやっていける、何かそういったことでも連携していければいいなと思っております。
		それから新ミュージアムが令和 6 年度には開館する予定ですので、ぜひバスツアーにも入れていただいて、1 日かけて雑司が谷旧宣教師館も近いので、切手の博物館とかも含めて来ていただけるような、そういう遠足めいたことなども企画していただけると嬉しいと思っております。
E	委員	そういうのも結構ありますよ、講座。私も何度か伺わせていただいております。
A	委員	私どもも講座をしています。なかなか豊島区の方にはお越しいただけない。
文化商工部長		ある特定の分野では結構深くやっけていまして、郷土とは離れてしましますが、3 月 12 日の日曜日に目白ロードレースという区民のマラソン大会がありますが、毎年、学習院のところをコースとして走らせていただいたり、あるいは生涯学習の部分では豊島コミュニティ大学というのもやらせていただいて、これも相当な年数を重ねておりますので、そういったところで今後も色々連携を、お互いに協力しながらやらせていただければと思っています。
A	委員	多分、一番の問題は大学の中での私たちの地位が低いということにありま

	す。学長とか企画部が、企画があるから、豊島区さんとの連携があるからと いって、それを史料館、博物館に下ろそう、声をかけてみようというそう いう考えがまったく出てこないのだと思います。声をあげていきたいと思 います。
浜田委員長	今回、ちょうど学芸員の方が委員に入っていらっしゃるので、直で色々交 渉するのも一つかなと思いますし、立教大学にも史料館がありますのでそう いうところとも連携をとっていただければと思います。
D 委員	(ふるさと学習バスツアーでは) 巣鴨小がトップで私も参観させていただ きました。ふるさと学習ツアーが単発にならないように、90周年バスツアー でやっていただけるなら、これは毎年やっていただけるくらいの予算を付け ていただければと思います。学校としては年間計画を立てるので、継続でき ないと急に入れられたという感覚が必ず出てしまいます。そこがひとつ。 もう一点はやはり、ここ(資料4-3)を見ていただいて原則4年(生)と言 ったけれど、見学は郷土学習で来ている学校があります。なぜかという と、私、社会科の者なので、見学は絶対に郷土学習でなければならないの です。ですから、これが、4年(生)だと単発になるのです。というのは、 見学の前後に勉強する理由がないからです。だから3年(生)の学習で取 り扱うのであれば前後に勉強することができる、文化財を必ず取り扱う ことというのは学習指導要領で文科省が言っていますね。ですから、文 化財など昔の物を取扱ったり、街並みの変化も3年(生)で取り扱うこと になっている。見学学年について事前に検討していただければ、おそ らく学校が「もしバスや予算が付かなくても、意欲的にそういうことや りますよ。」ということができるようになるのかなと思います。4年(生) でやるなら先人の開発とか、開発した人を取り扱うものをあげるか、 街並みの変化、今もやっていますけれど、これをもっと明確にしてい かないと、おそらく学校に意欲的にやっていただけない。このバス ツアーをやるなら3年(生)に変えていただけると、レトロ館も位置 付くし、郷土資料館も位置付くし、郷土学習の学校が郷土資料館 しか行かない理由は、結局バスツアーできないからですが、バスを 用意してくれれば全部やってくれるというところがあると、ありがた くお弁当を用意して、午前、午後のコースにできるかと思います。中 身が3年(生)扱い、なんで4年(生)にしちゃったのかというのはあ ります。単発であればいいのですが、やはりそこはちょっと考えてい ただけるといいかなと思います。
文化商工部長	来年度予算も取ってしまして、一応、教育委員会にとってはふるさと 学習ということで、また指導要領の中で位置づけて、継続しようとい う話はさせていただいています。
D 委員	指導要領ではなくて、教育課程です。
文化商工部長	教育課程ですね、失礼しました。むしろそういったお話は教育委員 会の中でもっと議論していただいて、ぜひ学校としても、そういう郷 土の見学が必要だということで、声をかけていただくと、我々もそこ に加勢して、是非、教育の方で予算を付けてくれると、より継続性 が増すと思っていますので、ぜひお願いします。
浜田委員長	3年(生)に変えるということですか。
D 委員	(3年生)にさせていただけるとありがたいですね。
文化商工部長	区長部局が予算をとるとなると、特にトキワ荘マンガミュージアム も絡めないとなかなか。今は予算をとっているのがその部署なので、 厳しいところがあります。そこをうまくやりくりできて、本来の小学 3年生の社会科というようにうまくもっていければ、それはより続け られると、可能性は出てくると思いますので、ぜひそこはお願いしま す。
文化デザイン課長	継続は大事だと思いますので、よろしくお願いします。
浜田委員長	今のご意見は、小学校の現場の先生からの大事なものだと思いま すので、

C	委員	<p>ぜひ尊重していただければと思います。</p> <p>日本博物館協会か、大学の博物館の組織、全博協（全国大学博物館学講座協議会）、どちらかのアンケートでちゃんと数字が出ていたと思いますが、小中学校で博物館に授業で行った経験のある子のほうが、リピート率が当然高くなるのですね。それから親に博物館、美術館に連れていかれた経験のある人は自分が親になったときに子どもを連れていくとかありましたね。</p>
浜田	委員長	<p>あります。</p>
C	委員	<p>確実にこれはアンケートで、数字で出ているのですね。こういった効果が。だから、やはり是非継続していただいて。種まき、少子化の折にね、種まきすごく大事だと思いますので。このまま頑張ってください。</p>
A	委員	<p>博物館法の改正でも地域と博物館の連携がかなり大きな軸になっていたかと思えます。</p>
浜田	委員長	<p>子どもの博物館体験というのはその後の成長過程において大きく関わってきますので、子どもの博物館利用は重要視してほしいなと思えますし、今、委員がおっしゃったように今度の博物館法改正の中では地域との連携とか、地域の博物館同士のネットワークも非常に重要視されていますので、こういう方向でこれから運営を進めていただければと思います。</p>
事	務局	<p>この議題についてはこの辺りでよろしいでしょうか。では続いて、4つ目の議題の令和5年度の事業計画について説明をお願いいたします。</p>
		<p>資料5-1と5-2になります。簡単に今の計画を申し上げます。5月28日まで「豊島大博覧会」が行われますので、そのあと臨時休館で展示撤収、展示準備をしまして、8月～10月の間で収蔵資料展、郷土資料分野がメインの関東大震災100年、新着資料展等を行う予定です。その後、臨時休館して、年に1回の企画展が今回文学・マンガ担当で、「生誕100年佐川美代太郎展」を10月～1月の予定で開催いたします。その後、また臨時休館を挟みまして収蔵作品資料展、こちら美術と郷土分野で、メインが美術の「比べてみる！5つの窓一新収蔵作品を中心に」ということで予定しています。</p>
		<p>先ほどお話がありました2月、3月は小学校の見学、社会科見学が多いので、ちょっと狭い展示スペースにはなりますが、「昔の道具の移り変わり」を展示して、学校連携ができるような展示を行いたいと思っています。庁舎まるごとミュージアムでは、庁舎オープンからずっと毎年行っております、3階のパネル展示を計画しております。</p>
		<p>講座、講演会などは、隔月の展示見どころ解説、あと先ほどお話がありました第18回池袋モンパルナス回遊美術館特別講演会ということで、毎年、美術分野が担当して企画を行っています。企画展関連事業は、後ほど企画案を簡単にご説明させていただきます。</p>
		<p>豊島ミュージアム講座も学芸員による連続講座ということで、今年度は中止しましたが、毎年行っています。刊行物は、配布資料にも付けておりますが、「かたりべ」という館だよりを年3回発行しております。来年は146～148号を予定しております。あと『生活と文化』という研究紀要と年報の発行。企画展の図録等を予定しております。来年の文学・マンガ担当の企画展は資料5-2になりますので、簡単に説明させていただきます。</p>

事務局	<p>では、文学・マンガ分野より簡単にご説明させていただきます。資料 5-2 と参考資料といたしまして令和 2 年度の庁舎まるごとミュージアムスポットライトコーナーのリーフレットもあわせてご覧いただければと思います。令和 5 年度は文学・マンガ分野が企画展を担当することになりました。2023 年に生誕 100 年を迎える区ゆかりの漫画家佐川美代太郎の生誕 100 年展を開催したいと考えております。独学で絵を学んだ佐川美代太郎は、会社員として勤務する傍ら新聞の投稿マンガでプロとしてデビューした漫画家です。代表作には中国の歴史を扱った作品や仏教を題材とした作品などがございます。</p>
	<p>また、佐川は中国を題材とした作品で知られる一方、1973 年に初めて、マンガ学科が設置された京都精華大学の教授として就任したことも知られております。後進の指導にも熱心に取り組んだ教育者としての一面もこの展示で紹介できたらと考えております。</p>
	<p>会期は現在のところ、令和 5 年 10 月 28 日から令和 6 年 1 月 14 日を予定しております。展示構成等はまた案の段階ですが、資料 5-2 に記載してあるような形で考えております。また、令和 3 年度には佐川美代太郎ご令嬢の小林美菜子様のインタビュー映像も制作しておりますので、この展示でお披露目したいと思います。そのほか関連イベントや制作物などは資料に記載のとおり検討しているところです。今後 3 月から雑司が谷の長女のご自宅の資料調査などを始めて、準備をしていく予定でございます。</p>
浜田委員長	<p>ただいま令和 5 年度の事業計画の説明がありましたが、これについて何か質問、ご意見があればお願いしたいと思います。いかがでしょうか。今度、展示では文学マンガ、美術系のものも出てくるようですが、委員から何かありますか。</p>
B 委員	<p>特にないですが、頑張ってください。期待していますという、そういう感じぐらいですね。</p>
浜田委員長	<p>5 月 20 日に行う講演会ですが、豊島区と立教大学との連携ということで、内容が「板橋区立美術館の 40 年」となっておりますが、これは具体的にはどのような取り組みでしょうか。</p>
事務局	<p>池袋モンパルナス回遊美術館という事業で、豊島区の池袋駅を中心に区とギャラリー、立教大学や東武デパートなどと連携しながら、地域の交流を目指すものです。一定期間イベントや展示など様々に行う中で、豊島区としては毎年講演会をしたり、ワークショップを開いたりしています。ここ数年は立教大学と共催の形で行っています。何かイベントをしようというお話が立教大学から持ち掛けていただいたところがあって、それならダブルネーミングということにしようということでやっています。講師の方を毎年変えて、今年は板橋区立美術館館長の松岡（希代子）さんに、板橋区立美術館が区立の美術館で最初に出来た美術館ということで、区と美術館が一緒にできていく歴史を語っていただくということでお願いしている次第です。</p>
C 委員	<p>B 委員は学芸員としておられたのですか、板橋区立美術館で。</p>
B 委員	<p>いえ、僕は板橋がオープンした頃は神奈川の美術館にいまして、板橋が面白くてしょうがないので、よく見にいきました。</p>
浜田委員長	<p>この講演会も、また、豊島区の新しいミュージアムをつくる参考になればいいかと思っておりますので、私も時間が合えば聴きたいと思っております。その他にご意見、ご質問は何かございますか。よろしいでしょうか。</p>
文化デザイン課長	<p>では、続いて「豊島大博覧会」の見学会を行いたいと思っておりますので、事務局の方で誘導をお願いしたいと思います。</p>
文化デザイン課長	<p>それではこれから事務局でご案内させていただきます、博覧会のご見学をしていただきたいと思います。</p>
文化デザイン課長	<p>（「豊島大博覧会」見学）</p>
浜田委員長	<p>再開させていただきます。</p>

C	委	員	<p>今「豊島大博覧会」ご覧いただきましたけれども、折角ですので、感想一人一言ずつお願いできたらと思います。どなたからでも結構ですが、いかがでしょうか。</p>
			<p>途中で何人かとお話したのですが、我々博物館学をやっている立場から言うと、やっちゃいけない展示、フリーマーケットのような展示だったので、それをあえて分かっている皆さんが、それこそ 15、16 世紀のドイツのブנדエルカンマー、驚異の部屋とか、あるいはヨーロッパの 18 世紀の王侯貴族のコレクションですよね、天井まで伊万里焼の皿が並べてあったり。何かそういう博物館学史的にそういうのを知っている人は面白く見たのではないかと。これだけの各分野の収蔵資料があるので、いずれこの郷土資料館の収蔵スペースでは手狭になることが分かりますので、やはり新しい博物館施設の必要性が垣間見られる展示室という感じがしました。</p>
D	委	員	<p>子どもと一緒にではなく、大人として見られたのが嬉しいのと、やはり子どもの立場に立って見たときにストーリーが見えるというのがすごく大事で、その場面だけじゃなくて、こう変わっていったんだよ、というのと、これも未来があるというのも、子どもにとっては嬉しい。自分が 20 歳になったときに、こうなるんだというのは、今も色々な授業をやっていると最後に未来はどうなるんだろう、考えてもらおうとやるので、自分は何したいとやるので、とてもいいなと思いました。</p>
E	委	員	<p>絵をたくさんいっぱいに見られたのが(良かった)。それから小熊秀雄さんの《すみれ》、前から好きだったので、また今日も見られて楽しかったです。ありがとうございます。</p>
A	委	員	<p>噂には伺っていたのですが、初めて拝見しまして、本当に驚異の部屋だなと思いました。学芸員の方たちのご苦勞が本当に偲ばれるなと思いました。いいところからは、やはりいろいろな分野の収蔵品を一堂に会して皆さんに見ていただける機会はなかなかないと思いますので、このように活用ができて、これとこれが連携できるよねとわかるわけです。このような展示施設が一つにまとまると本当に良いだろうと思いました。</p>
事	務	局	<p>悪い面と言うのも失礼ですけど、会期が長いので展示品がどうなってしまうのだろうと心配になりました。拝見するとチラシとか伝単とかすごく脆弱な酸性紙のものも多かったので、結構光も強い部分もあったかと思っておりますので、そういった意味でちょっと資料には可哀そうかなという感じがいたしましたが、展示替えはどれくらいでされているのでしょうか。</p>
			<p>レイアウトキャプションと展示リストを変えながら展示替えしています。全面的な展示替えはないので、大ケースは特に戦中・戦後の資料は、同じようなものを、寄贈いただいている他のものに変えたりとか、紙関係は展示替えしているのですが、物(もの)資料はそれ一点しかないものばかりなので、今回、区制 90 周年の時に一度多くの人に見てもらったら、しばらくはやはりケアをしたり、修復したりというものもたくさん出てきています。ただ、今回じゃないと見ていただけないだろうということも思いましたので、そこは悩みながら資料を出しました。収蔵庫に入れていたら(資料が)長生きするかというと、それもなかなか郷土資料館の収蔵環境が非常に厳しいところがありますので、それなら今回思い切って実物を見ていただこうと思いました。</p> <p>子どもたちも小学校 3、4 年生も『ちいちゃんのかげおくり』という絵本で空襲のことを勉強していますので、非常に子どもたちもよく戦争のことを見て、学んでくれています。確かに委員のおっしゃるように資料劣化というのはあるのですが、どちらかと言うと、それよりも良い機会だと思って取り組んだ次第です。</p>
A	委	員	<p>ぜひこのあと、新ミュージアムができて、分野別の収蔵庫がきちんとできるといいなと資料のために思っております。</p>

B	委員	<p>僕もね、今、出た話と変わらないですが、用事があって3回ぐらい来たんだけど、3回見てね、おお～やっぱりいいなあ。基本的にはね、明治、大正からかもしれないけど、豊島区の豊かさだね、そのいろんな起伏がある歴史の中で創出したものがすごくよく見える。しかし、それで言いたいことは、このごちゃまぜの展覧会が実にいいって僕は思ってね。その展示は、別に技術じゃないのでね。ものって何かって、いろんなこと考えるための方法、そのときの展示なのでね、みんなでね、ごちゃごちゃにやろうぜっていう発想が人を惹きつけ、豊島を豊かにしていくのであれば、これからの美術館の基本ベースをその発想がね、つくるかもしれないなと思ってね。面白がりました。</p>
浜田	委員長	<p>私も拝見させていただきまして、やはり博物館学を研究している立場からは、何か博物館の原点みたいな企画展だったかなと思います。古い時代の博物館はこういう感じだったのだろうなってことがとても思い出されますし、先ほど驚異の部屋という言葉がありました。本当に近代の博物館ができるまでは、やはりこういう展示がきつとベストだったのだろうなってことがすごく分かる展示でした。おそらく博物館学の立場からすると、展示論的には、今のこの資料を（博物館）学的に展示すると多分面積が4倍か5倍必要かなと思います。ですから、（資料が）これだけあるということは、それだけの展示面積が豊島区にとっては必要だということの表われでもあるのかなと思います。ここ（郷土資料館）は明らかに手狭なので、新しい博物館をつくる時の一つの景気づけにはなるのかな、と印象としては思いました。</p>
		<p>それから、これまでにご意見が出ましたが、確かに資料保存の面で、ちょっと心配で、会期を数えたら約8ヶ月あるのですね。そんな企画展は普通あり得ないですね。ですから通常だと特別展3回、4回分をここでまとめてやるということなので、資料を見ると先ほど委員がおっしゃったように、中性紙とか、万年筆の資料なんかもあるので、ずっと展示するとちょっとまずいかなと思いますので、やはり随時交換できるものはしてもらった方がいいかなと思いました。ただ、先ほど学芸員からご説明があったように、これまでほとんどお目にかけることのできなかつた資料が多いということでしたので、そういう意味ではここで一気に展示して、これから10年間ぐらいは多分しまっておかないといけないと思うのですけれど、そういうことを代償として展示の覚悟に至ったのかな、というふうには感じました。いろんな意味で面白かったので、今度ぜひ私のゼミ生を連れて見学にお伺いしたいと思います。</p>
C	委員	<p>やっぱり博物館、美術館がつまらないっていう人は、手を後ろに組んで見るだけでつまらないっていう人もいるのですね。そういうのはやはり、今、参加型の展示というか、「ナニコレ珍百景」とかああいうのが人気なのは、見る人が面白いと思ってボタン押しているんだよね。だから、これだけたくさんあるから、私のお気に入り投票みたいな、何かそういうただ見るだけじゃなくて、そういうのをやって、きれいなクリアフォルダーをあげるとか、参加しながら入館者が見るには楽しい展示ですよ。学習とかそういう言葉じゃなくて、好きなものを選ぶみたいな、そういう機会になるかもしれませんね。</p>
事	務	<p>アンケートにはお気に入りの展示を1、2と書いてもらっています。アンケートなのでなかなか難しいですね。確かにもうちょっと投票しやすいようなものがあると…。</p>
C	委員	<p>人気投票みたいなね、してもいいかもしれませんね。</p>
浜田	委員長	<p>展示方法もさることながら、私も近現代史の資料を扱ってきたので、資料自体も一個一個とっても面白いなと思いました。田舎だと、なかなか集まらない資料もたくさんあって。さすが豊島区だなと思いました。ということで、</p>

講評と言いますか、感想になりましたけれど、参考にしていただけたらと思います。

最後、全体を通して何か皆さんから情報提供なり、ご意見があればお出しただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

C 委員

豊島区立郷土資料館の協議会ですね、これって。だけど、途中で僕は色々な他の施設の話もしましたが、それぞれの施設に協議会はあるのですか。ここは兼ねているのですか。

文化デザイン課長

郷土資料館のいわゆるサテライト（会場）になっている鈴木信太郎記念館や雑司が谷旧宣教師館については一緒にやっております。昭和歴史文化記念館、こちらについてはトキワ荘マンガミュージアムと場所も近いということもありまして、南長崎で検討協議会みたいなものが立ち上がっています。郷土資料館でやっているところは、雑司が谷旧宣教師館と鈴木信太郎記念館の2館。また味楽百貨店を元にした昭和レトロ館については、そちら（南長崎）の方になっているというような形で進んでいると思います。

C 委員

要するに郷土資料館、狭い意味での郷土資料館じゃなくて、今日のように多少問題もあるのかもしれないけど、豊島区全体の文化施設というか、博物館施設について発言しても大丈夫ですか。豊島区とか新宿区は、ミニミュージアムをたくさん持って、そういうミニミュージアム巡りの面白さみたいなところが特徴になりつつあるので、それもひとつ大事だと思います。今回、昭和レトロ館を知らなかったので、今度行ってみたいと思います。

B 委員

僕も同じですが、その今までの経過があるよね、美術館をつくるための。美術館というか、美術館、博物館、文学館一体の。それを踏まえて、具体的に、その建物がなんだっていうことでなくても、そういうものを作るのだったら、豊島区としてはどういうものにしようかって、やっぱり議論を重ねていくような場所に、ここをしないとね。なんかあんまり面白くないな～って僕は正直思うの。展覧会いいし、いい展覧会で良かったねって口に出すのは楽しいことだけど、えっ、なんだよ、俺そのために来たのかよ、っていうような感じがしないでもないのね。やっぱり、豊島区の新しい何かこう、ものを見せ、大切にし、これから伝えていくための構想を豊かに蓄えようじゃないかっていうような、そういう場所にしないとね。何だか気概がないな～みたいな感じもしないでもないですね。

浜田委員長

私も同じ思いでありまして、この場は郷土資料館運営委員会という名称ではありますが、やはり今後の新しい豊島区のミュージアムづくりに向けた基本的な委員会として機能できるようになってほしいと思います。明らかに今回の企画展を見ても、この施設が手狭過ぎるということは、区民にも理解いただけたと思いますので、そういった意味で新しい博物館づくりに向けられたらいいかなと思っています。

それから、最後にご存じのように去年の4月に改正博物館法が公布されました。なかなか思うように改正できなかったのですが、一応、私その改正の座長を務めてきておりまして、この4月から施行になります。今度、教育委員会の枠を外して公立博物館は、首長部局でも登録館になることができます。ただ、今このタイミングで豊島区が登録博物館になるのがいいかどうか、なかなか新館構想がある中で難しいのですが、ただその資格は整っていますので、もし可能であれば登録博物館を目指して、これから事業展開してもらおうといいかなと思いました。指定、登録を受ければ補助金も受けやすくなりますので、そんなこともご検討いただけたらどうかなと思っています。

文化デザイン課長

本日はどうもありがとうございました。今、議長からお話がありましたとおり、こちら（運営委員会）の設置要綱を改正させていただきまして、所掌事務の中に資料館の事業運営に関するものと、もうひとつ大きなところで、新館構想のあり方に関することを明記させていただきましたので、そちらと

	あわせまして、皆様のお力をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
浜田委員局長	次回の会議予定はどうなるのでしょうか。
理事	次回は企画展開催中にできればと。10月～1月を予定しております。
浜田委員局長	この運営委員会は基本的に年に2回ぐらいの開催ですか。
理事	年に1回です。新館（計画）などが立ち上がれば当然予算が付くと思いますが。
浜田委員局長	わかりました。その他全体を通して何か皆さんからございますか。よろしいでしょうか。それでは令和4年度豊島区立郷土資料館運営委員会を終了したいと思います。皆さんお疲れ様でした。
一	同 ありがとうございます。

会議の結果	区制90周年事業および令和5年度事業計画について説明し、承認を得た。また特別展の見学・講評を行なった。来年度は企画展会期中に開催する予定。
提出された資料等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 資料1…区制90周年企画展について（報告） ◆ 資料2…区制90周年企画展 来館者数 ◆ 資料3…区制90周年「豊島大博覧会」（4事業）について ◆ 資料4-1…区制90周年特別展「豊島大博覧会」来館者数 ◆ 資料4-2…区制90周年「豊島大博覧会」（4事業）来館者数 ◆ 資料4-3…郷土資料館・昭和レトロ館 学校見学スケジュール ◆ 資料5-1…令和5年度事業計画について ◆ 資料5-2…令和5年度文学・マンガ分野企画展案「生誕100年 佐川美代太郎展（仮）」 ◆ 豊島区立郷土資料館運営委員会設置要綱 ◆ 豊島区立郷土資料館運営委員会委員名簿
その他	